

令和7年度 文部科学省委託事業 いじめ対策・不登校支援推進事業
いじめ・不登校等の未然防止等に向けた魅力ある学校づくりに関する調査研究

「心理分野に強みや専門性を有する教師の 育成のための教職員向け研修プログラム」

第3章 スクールカウンセリングの理論② -学校心理学-

高崎健康福祉大学・教授

家近 早苗

※所属は2026年4月時点のものです

本日の予定

1. 学校心理学の定義とその領域
2. 日本の学校心理学の特徴
3. 心理教育的援助サービスの基礎概念
4. 三段階の心理教育的援助サービス
5. 学校心理学におけるアセスメント
6. 学校心理学におけるカウンセリング
7. 学校心理学におけるコンサルテーションとコーディネーション：三層の援助チーム
8. 学校・学級づくりへの学校心理学の応用

1 学校心理学の定義とその領域

○日本の学校心理学

「学校教育と心理学を統合した学問として、一人一人の子どもの援助ニーズに応じる心理教育的援助サービスを支える学問体系である」 (石隈, 1999)

○心理教育的援助サービス：

一人ひとりの子どもの学習面、心理・社会面、進路・キャリア面、健康面など「学校生活」における問題状況・危機状況での援助と、子どもの成長を促進する教育活動 **★学校生活の質 (Quality of School Life: QOSL) の維持向上**

2-1 日本の学校心理学

- 日本においては、教師が中心となって、スクールカウンセラーらのチームで心理教育的援助サービスを行っている。

教師、保護者、スクールカウンセラー（SC）、
スクールソーシャルワーカー（SSW）、地域の援助者らが、
チームで行う。

★特別支援教育コーディネーター・教育相談コーディネーター、副校長・教頭、主幹教諭、養護教諭、SCなどの
「コーディネーター・チーム」

2-2 教師が行う指導サービスと援助サービス

教師：複合的ヘルパー（指導と援助を同時に行う）

①指導サービス

児童生徒が成長するうえで必要な知識や能力を獲得できるように指導する教育活動「ティーチング」「ガイダンス」

②援助サービス

児童生徒が学校生活を送るうえで出会う問題状況や課題に対して解決できるように援助する教育活動

2-3 教師・保護者・専門家とのチーム援助

- ・ 苦戦する児童生徒を援助するチームが「援助チーム」であり、チームによる援助は、「チーム援助」である。

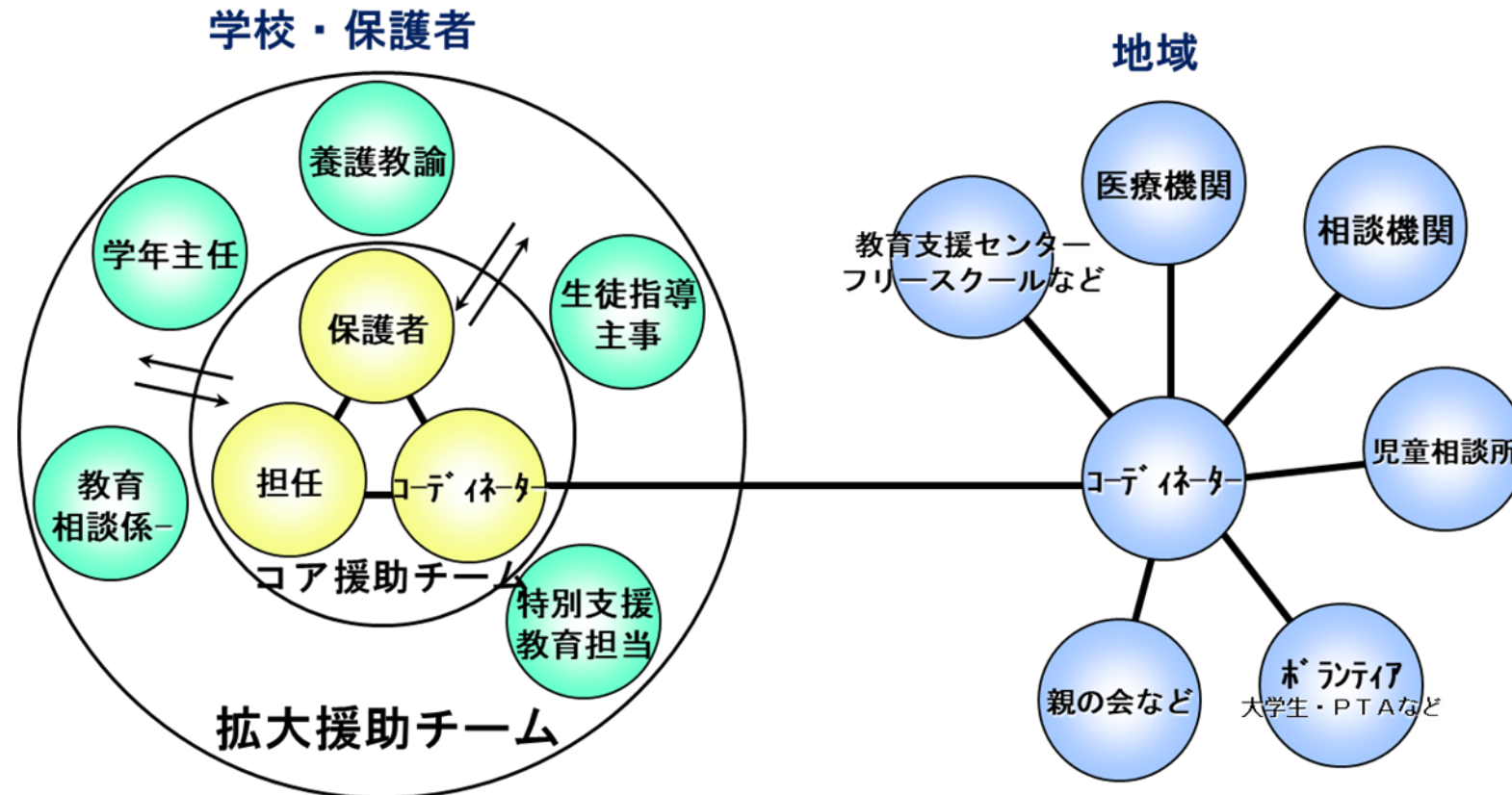


図 石隈・田村(2018)より

3-1 心理教育的援助サービスの基礎概念： 誰を援助するか

①子ども

すべての児童生徒＝多様な子ども（個性、援助ニーズ）

②援助者

「教師＋S C・S S W」＋保護者＋地域など援助者の援助

③学校（組織・コミュニティ）

☆すべては児童生徒のために

3-2 心理教育的援助サービスの基礎概念： 何を援助するか

＜援助の考え方＞

児童生徒の成長

児童生徒が課題に取り組む

発達課題 教育課題 家族・文化の課題

問題状況・・・「問題児」ではない

☆無事平穏がいいのではない。

問題に対応し、回復しながら、成長する

3-3 援助サービスの焦点

○児童生徒

○児童生徒と環境の
相互作用

○環境

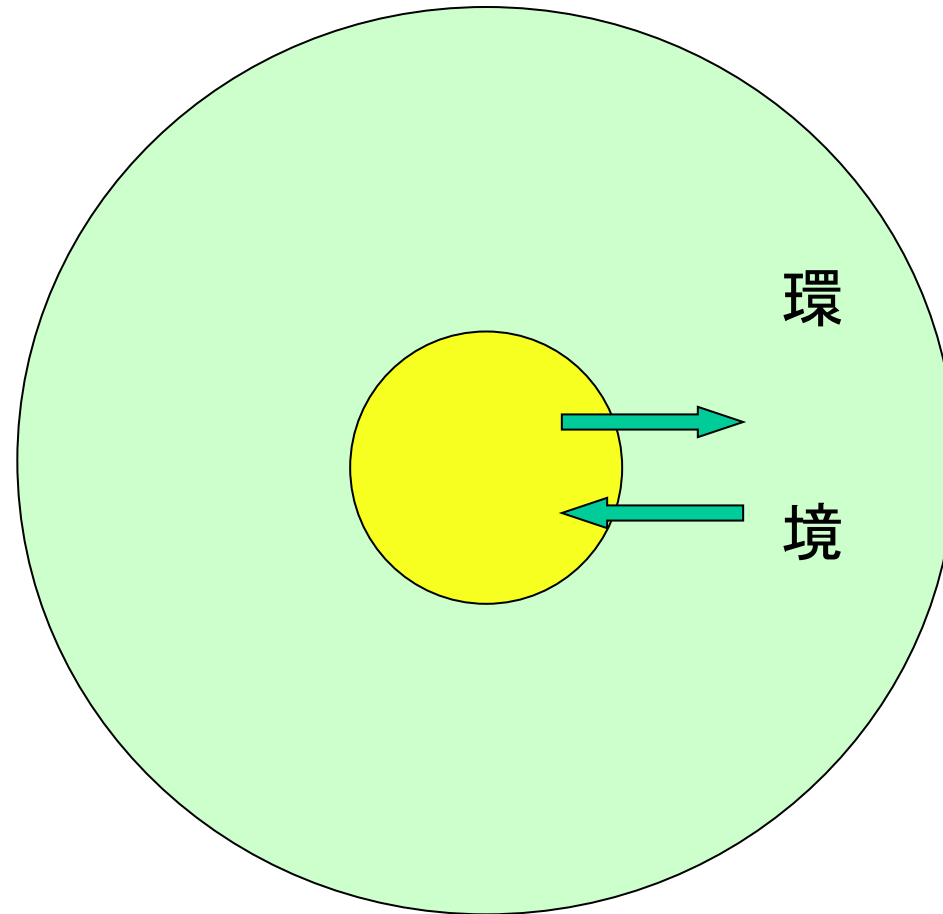


図 環境の中の子ども

3-3 援助サービスの焦点

①個人的要因：発達の状態や特性、発達障害、性格、レジリエンス（回復力）、自己効力感、「心の傷」（トラウマ）の蓄積

学校生活の状況

学習面、心理・社会面、進路・キャリア面、健康面

②環境（学級・学校、家庭、地域）

安全（大人の責任） ・ 安心（児童生徒が感じる）

・ 参加しやすい、学びやすい、弱さが出せる

3-3 援助サービスの焦点

③環境（集団、組織）：場の力、環境の力

「チーム学校」による援助力

- ・ 構成員のコミュニケーションなど
- ・ 同調性、同僚性、相互援助性：横の関係
- ・ 管理職のリーダーシップ：安心感と意欲を高める縦の関係

★援助者は環境の一部、環境を変える担い手でもある

3-3 援助サービスの焦点

④児童生徒と環境の相互作用

A 個人の行動と環境からの要請行動の適合（マッチング）（近藤，1994）

★児童生徒の学習スタイルと教師の教授スタイル

★児童生徒の行動様式と要請されている行動

3-3 援助サービスの焦点

⑤児童生徒と環境の相互作用

B 個人と場の折り合い (田上, 1999)

○よい人間関係がある

○楽しい経験をしている

○価値のあることを達成できている (意味が分かる)

☆環境が児童生徒に折り合う柔軟性を伸ばす

4-1 三段階の心理教育的援助サービス： どう援助するか

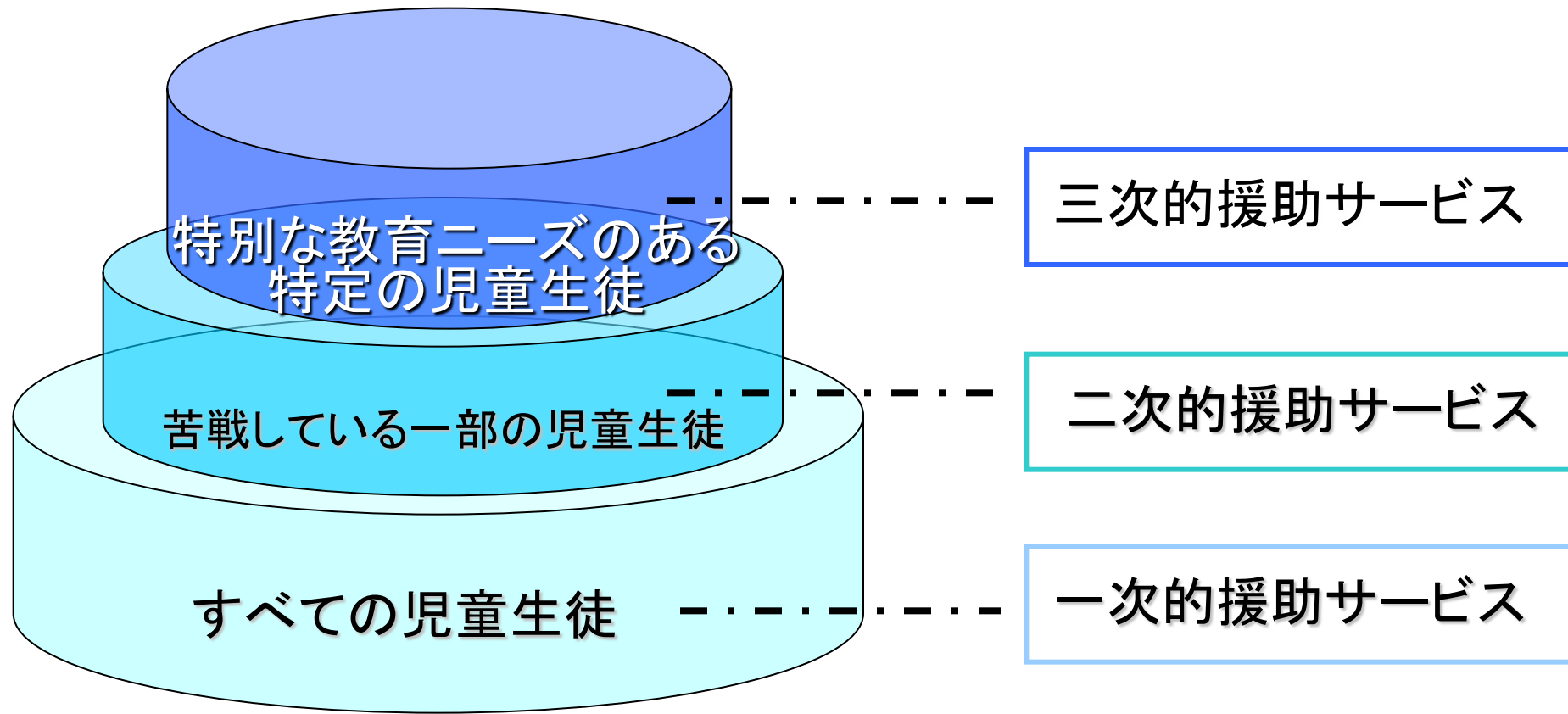


図 三段階の心理教育的援助サービス

4-2 全ての児童生徒への一次的援助サービス

成長を促す→発達を支持する

- ・ 児童生徒が自発的・主体的に自らを発達させていくことが尊重されその発達の過程を学校や教職員が支える。
- ・ (多様性) 一人一人の児童生徒のペースで発達する
学習面、心理・社会面、進路・キャリア面、健康面

4-2 全ての児童生徒への一次的援助サービス

社会性と情動の学習 (SEL: Social Emotional Learning)

自己の捉え方と他者の関わり方を基盤として、社会性に関するスキル、態度、価値観を身につける学習 (SGE, SST, ライフスキル、対人スキル含む)

SEL-8S (小泉令三・山田洋平 2011 『社会性と情動の学習(SEL-8S)の導入と実践 (子どもの人間関係能力を育てるSEL-8S 1)』 ミネルヴァ書房他)

基礎的社会的能力：自己への気づき、他者への気づき、自己のコントロール、対人関係、責任ある意思決定

応用的社会的能力：生活上の問題防止のスキル、人生の重要事態に対処する能力、積極的貢献的な奉仕活動

4-2 全ての児童生徒への一次的援助サービス

学級・学校におけるニーズのアセスメント

いじめ防止教育：ピアサポートプログラム

SOSの出し方教育を含む自殺予防教育

薬物乱用防止教育（市販ドラッグも）

感染症の予防教育（偏見の問題も）

情報モラル教育・メディアコントロール

☆プログラムを教育課程に位置づける

4-3 一部の児童生徒への二次的援助サービス

対象：

①発達や学校生活におけるつまずきや課題の予兆のある児童生徒

②課題のリスクの大きい児童生徒

発達障害、精神疾患、健康課題のある児童生徒

支援を要する家庭の児童生徒、転校生

目的：課題のリスクを早期に発見して、課題が大きくなり児童生徒の発達を妨害することのないように対応する

★メンタルヘルスの予防

4-4 特定の児童生徒への三次的援助サービス

課題解決（生徒指導提要）→課題対応（『提要』）

児童生徒がよさや可能性（自助資源）を伸ばし、援助資源を活用しながら、発達するのを支援する。

対象：不登校（長期欠席）、いじめ被害加害、自殺、非行、
児童虐待、発達障害による困難

☆個別の指導計画・個別の教育支援計画，「個別の支援計画」

★チームによる児童生徒の発達の援助

演習

学校の中でできる、一次的援助サービス、二次的援助サービス、三次的援助サービスについて、不登校に関する援助の例を挙げてください。

一次的援助サービス：

二次的援助サービス：

三次的援助サービス：

5. 学校心理学におけるアセスメント

- 心理教育的援助サービス：アセスメント・カウンセリング・コンサルテーション
- 学校心理学でのアセスメント：児童生徒の問題状況や課題への援助の基本となるのがアセスメントである。
- ある問題について基盤となる情報を収集し、分析して意味づけ、情報を統合することで意思決定するための資料を提供するプロセスである（石隈, 1999）。

5-1 生態学的アセスメント

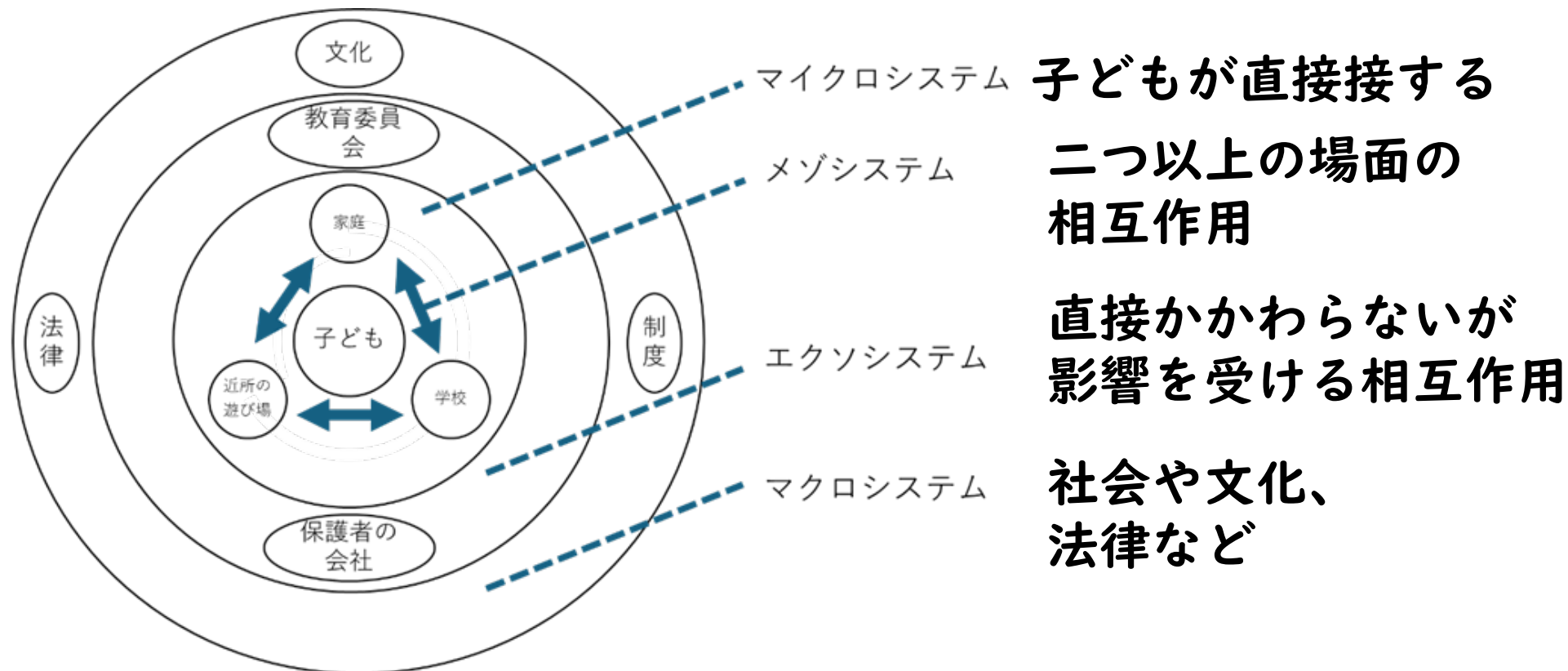


図 生態学的アセスメント (Bronfenbrenner, 1979 (磯貝ら訳, 1996) を参考に作成)

5-2 児童生徒個人のアセスメント

- ①学習面：学習への意欲や得意な教科、知能や学力、学習の進度など
- ②心理・社会面：児童生徒が何を感じているのか、何を考えているか、対人関係など
- ③進路・キャリア面：夢やなりたい自分、進路
- ④健康面：睡眠、食事、入浴など

6 学校心理学におけるカウンセリング

- 狭義：SCやそれに準じる専門家による、児童生徒の問題解決をめざした面接
- やや広義：教師やSCによる児童生徒への直接的、援助的な関り
- 広義：児童生徒が学校生活を通して出会う問題状況や危機状況の解決を援助し、児童生徒の成長を促進する援助サービス

7. 学校心理学におけるコンサルテーションとコーディネーション：三層の援助チーム

- コンサルテーション：「異なった専門性や役割をもつ者同士が子どもの問題状況について検討し今後の援助のあり方について話し合うプロセス（作戦会議）」
(石隈, 1999)
- コンサルテーションを行う者をコンサルタント、コンサルテーションを受ける対象がコンサルティと呼ぶ。
- 目的：コンサルティの職業上あるいは役割上の課題における援助とコンサルティの援助能力の向上である。

7. 学校心理学におけるコンサルテーションとコーディネーション：三層の援助チーム

- 学校組織「疎結合システム」(Weick, 1976)：教師同士に職務上の緊密な結びつきが弱く、教師の自主性が保障され、学級経営や教科指導に関して、教師の専門的能力に基づいた独自性が尊重される。
- 組織全体がフラットな構造
- 下部に独立性の高い集団が存在
- 縦と横の情報連携を作り出すことが重要

7-1 三層の援助チーム（家近・石隈, 2021）

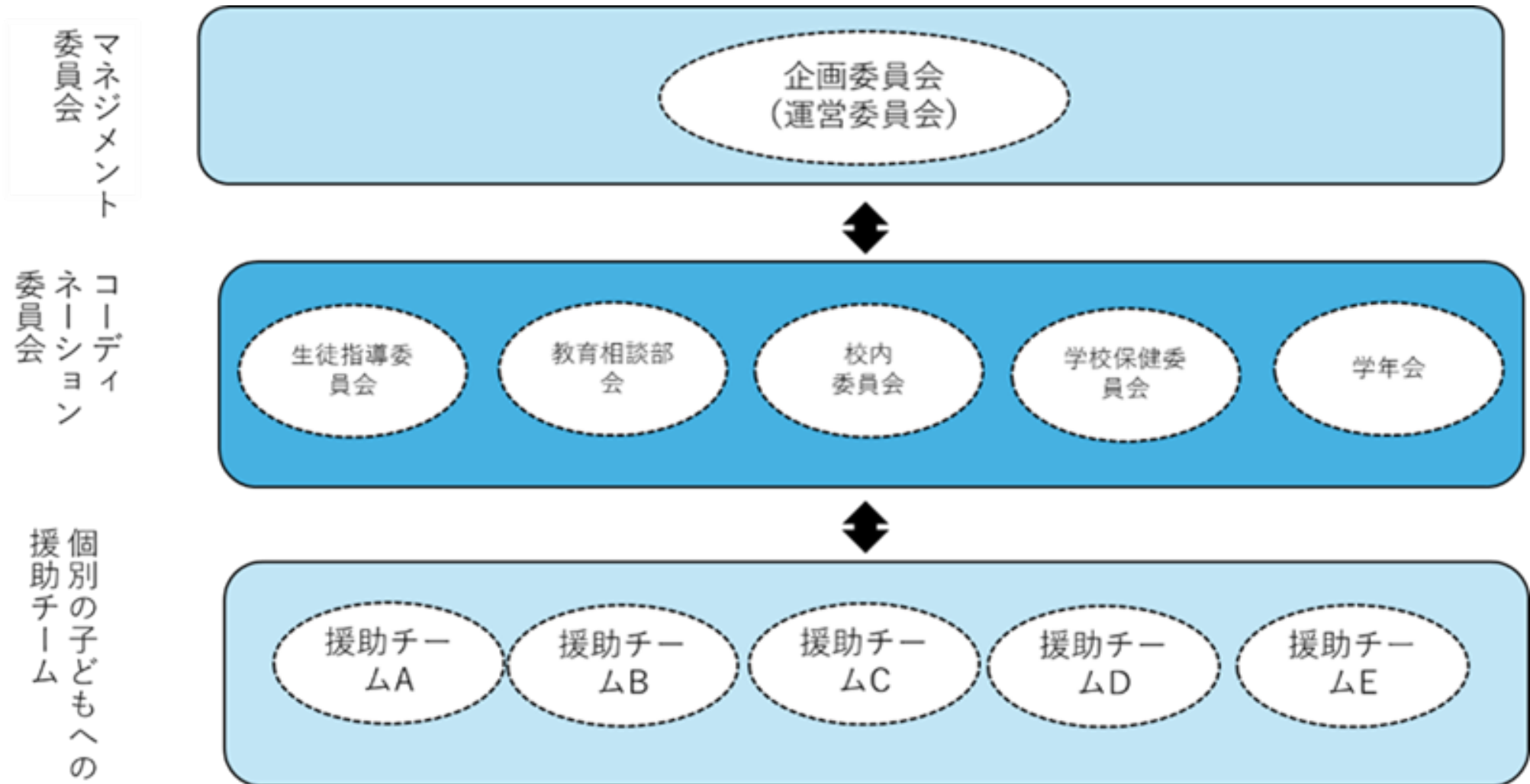


図 三層の援助チーム

(1)個別の子どもへの援助チーム

- 児童生徒の問題状況に応じて作られ、問題解決と共に解散される性質があり、援助は、児童生徒の問題状況に応じて援助チームの開始から終了までのある一定の期間行われる。
- いじめや不登校などの三次的援助サービスで、臨機応変に作られる。
- 相互コンサルテーション（田村・石隈，2018）
参加者がそれぞれの専門性によって相互にコンサルテーションを行う。

(2) コーディネーション委員会

- 校内組織（校務分掌）に位置づけられている。
- 定期的、恒常的に開催
学年や学校の中の課題について、定期的に情報を収集する。メンバーは、学年の代表者や、生徒指導主事、養護教諭、コーディネーターなど
例：生徒指導委員会、教育相談部会、特別支援教育における校内委員会、学年会など
- 連絡や調整、それぞれの専門性の発揮、援助のコーディネーション・・・横の連携を促進する。

(3) マネジメント委員会

- 学校全体の教育目標を達成するための意思決定や危機管理を行う委員会：定期的に行われる。メンバーは、管理職や生徒指導主事、学年主任など
- 問題・情報の共有化、学校の課題に関する協議、決定、指示・伝達、終了の過程で循環的に行われる(山口・石隈, 2009)
- マネジメント委員会の機能がチーム援助体制とチーム援助行動に影響を与える(山口・樽木・家近・石隈, 2012)

7-2 コーディネーション委員会の機能

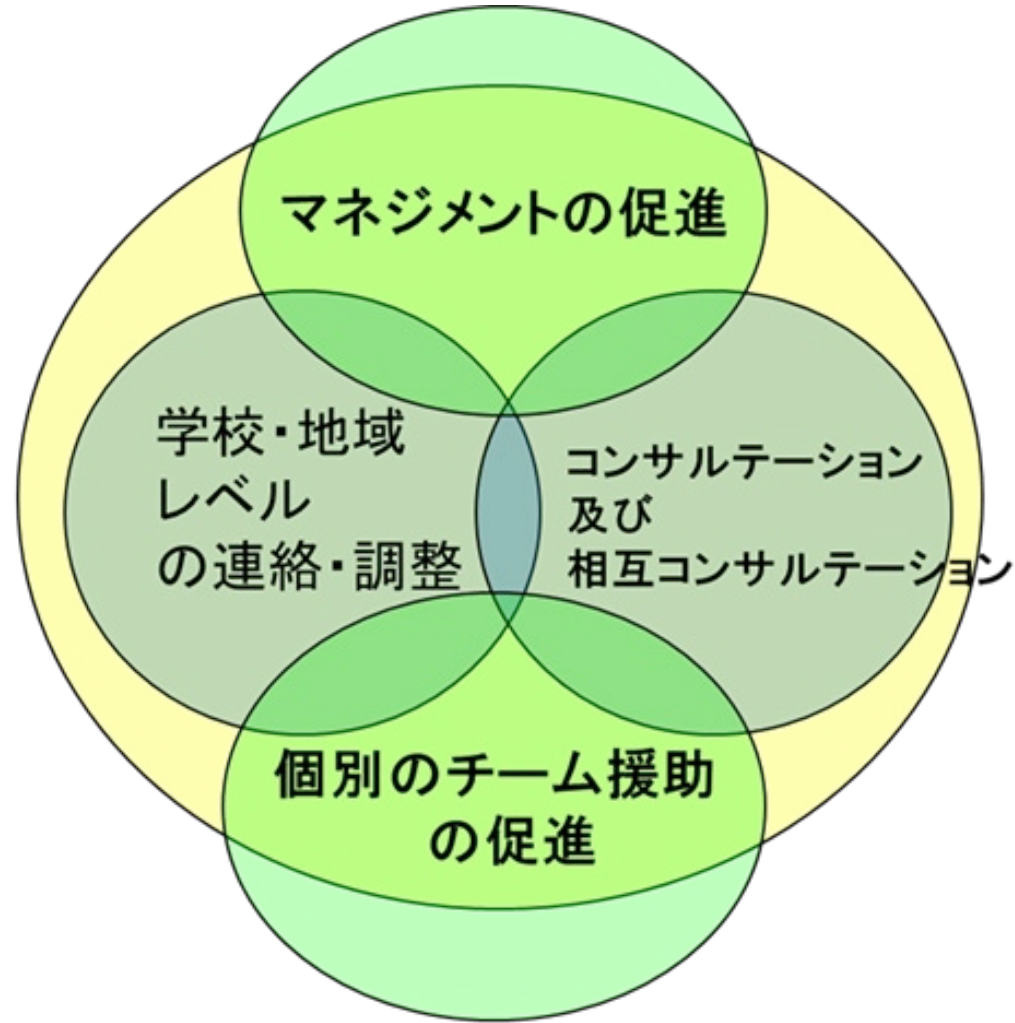


図 コーディネーション委員会の4つの機能
(家近・石隈, 2003)

8. 学校・学級づくりへの学校心理学の応用 と学校・教師への期待

- 教師のチームワークと学校風土

(三沢・森安・樋口, 2020)

チームワークの良さ⇒学校の協働的で安全な雰囲気

教師の雰囲気の良さ⇒児童生徒の学校生活

- 教師の能力の向上と児童生徒の学校生活 (家近, 2025)

★学校生活の質 (Quality of School Life: QOSL) の維持向上

引用文献・推薦図書

- Bronfenbrenner, Urie 著 〈Bronfenbrenner Urie〉 / 磯貝 芳郎 / 福富 譲訳 (1996) 人間発達の生態学 (エコロジー) —発達心理学への挑戦 川島書店 ※原著は1979
- 家近早苗・石隈利紀 (2003) 「中学校における援助サービスのコーディネーション委員会に関する研究」 『教育心理学研究』 51, pp. 230-238.
- 家近早苗 (2025) なぜ学校にチームワークが求められるのか —学校心理学の立場から— 指導と評価 図書文化社
- 石隈利紀 (1999) 学校心理学 教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス 誠信書房
- 石隈利紀・田村節子 (2018) 新版石隈・田村式援助チームシートによるチーム援助入門：学校心理学実践編
- 石隈利紀・家近早苗 (2021) スクールカウンセリングのこれから 創元社
- 小泉令三・山田洋平 (2011) 社会性と情動の学習 (SEL-8S) の導入と実践 (子どもの人間関係能力を育てるSEL-8S 1) ミネルヴァ書房
- 近藤邦夫 (1994) 教師と子どもの関係づくり 東京大学出版会
- 三沢良・守安史彦・樋口宏治 (2020) 教師のチームワークと学校組織風土の関連性 『チームとしての学校』 を実現するための前提の吟味 岡山大学教師教育開発センター紀要, 10, pp. 63~77.
- 中村和夫 (2011) ヴィゴツキー心理学 新読書社
- 田上不二夫 (1999) 実践・スクールカウンセリング 金子書房
- Weick, K.E. (1976) Educational Organizations as loosely coupled systems, Administrative Science Quarterly, 21(1), pp. 1-19.
- 山口豊一・石隈利紀 (2009) 中学校におけるマネジメント委員会の意思決定プロセスと機能に関する研究 日本学校心理士会年報, 1, 69-78.
- 水野治久・家近早苗・石隈利紀 (2018) チーム学校での効果的な援助 学校心理学の最前線 ナカニシヤ出版
- 日本学校心理学会編 (2025) 学校心理学事典 丸善出版

推薦図書

石隈利紀 1999 学校心理学-教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス 誠信書房

石隈利紀・家近早苗 2021 スクールカウンセリングのこれから 創元社

日本学校心理学会編 2025 学校心理学事典 丸善出版